

日刊 動労千葉

84. 5. 16
No. 1641

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

好転阻止を断固 統合廃絶攻撃の過員をテコとした改悪乗働

5%交渉部長会議で意志統一

五月十日、十時より、一九八三年度交渉部長会議が動力車会館において開催され、動乗改悪阻止闘争の経過と総括、および「過員」問題等を中心に活発な討論をおこない、当面する取り組みについての意志一致をかちとりました。

活発な討論を展開 —現場の怒りと闘争意欲を反映—

会議は関特執を座長に議事が進められました。最初に山口副委員長より挨拶を兼ねて、八四春闘の取り組み、内達—動乗改悪阻止闘争の総括と今後の取り組み、反合運転保安の確立、59・4昇給についての取り組み等が一括提案され、ただちに質疑・討論に移りました。

- ① 動乗勤が改悪されたことにより、当局は「千葉鉄一九八四年度経営改善計画」の中で、さっそく乗務員・検修基地の統廃合や異車種混運用の導入を提案してきている。さらに、「一日平均6時間40分」への労働強化については、運転保安や健康上の面で現場の仲間には非常に深刻に考えていること。
- ② 当局が「過員」対策として夏季輸送期間中に動乗本科生を営業系統に助勤させようとの提案をおこなってきていることに対しては、われわれは反対であること。
- ③ 佐倉支部からの転勤希望者の整理はできるのか。
- ④ 検修関係の「検査基準の見直し」攻撃に対する取り組みについて。
- ⑤ 構内職の退職補充について、動乗予科制度の矛盾と新規採用がストップされている今日の状況下では、他系統からの専門職の補充をも考えていく必要があるのではないか。等の意見が出されました。

運動保安闘争強化、基地統廃合阻止、当局の「過員」攻撃を粉碎しよう
—本部答弁—

以上の質疑をうけて、本部から次のような考え方が明らかにされました。

- ① 「異車種混運用」は、乗務員の労働強化をもたらし基地統廃合につながることに、特に運転保安の面からも危険であるので阻止しなければならぬ。
- ② 現行の乗務区分、受持行路を守っていくことは、運転保安上からも、基地統廃合を阻止するうえでも重要な闘いであるので、乗務員



全力で
5.20
今秋二期工事強行粉碎、成田用木実力阻止
土地収用法弾劾、脱着派粉碎、一掃、
五・二〇 全国総決起集会
正午・三里塚第一公園
動労千葉集合10時、成田運転区

- 分科会を中心に学習会等を開催し、協定内容を熟知・検討して、対策を強化していく。
 - 「ダイヤ作成」での取り組みとしては、行先地の時間、準備時間、看視時間を最大限確保する方針で闘う。
 - ③ 「過員」問題は重大な案件であるので、当局の不当な運用やマル生的攻撃を絶対に許さないために、組織をあげて全力で取り組んでいく。
 - ④ 土職の「過員」を他の系統に運用するといふ当局提案は阻止する。
 - ⑤ 佐倉支部の応急処置、規程改に伴う現車訓練と転勤希望については、支部、乗務員分科と話し合い、他区との要員操配をも見すえつつ、対策を強化していきたい。
 - ⑥ 構内職の補充については、構内分科、検査・検修分科、乗務員分科にかかわる問題なので、本部の各分科会で検討し結論を出していく。
- 等の本部答弁をうけて満場一致、確認決定されました。
- 交渉部長会議は、最後に、森内特執の閉会のことば、山口副委員長の団結ガンバローをもって成功裡に終了しました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！